

2011 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	国際会計研究科	身分	教授
氏名	高田橋 範充		
NAME	Norimitsu Kodabashi		

1. 研究課題

(和文) 専門職大学院における IFRS 教育カリキュラムの開発

(英文) A Development of IFRS's Educational Curriculum for Graduate Schools

2. 研究期間

2 年間

3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度)

(和文)

本研究は、専門職大学院レベルにおける IFRS (International Financial Reporting Standards: 国際財務報告基準) 教育カリキュラムの開発を目的とするものであった。IFRS の特徴は、具体的な詳細な規定を置くことなく、専門家の判断を尊重する考え方、すなわち、原則主義 (principle-based) であることに求められるが、その教育においては専門家としての判断能力をいかに培うかが重要なテーマとなる。このテーマに対して、本研究では、その計画段階では、既に 2005 年に IFRS を導入したオーストラリアの会計職業団体を訪ねて、教育マテリアルを入手し、それらをいわば移植することにより、判断能力形成ためのカリキュラムが開発できるのではないかという想定があった。この想定に従って、研究の初期段階でオーストラリアの会計職業三団体を訪問し、インタビューを行い、関連資料の収集に努めた。その結果、会計士制度の在り方、会社法や証券取引法などの法制度の体系、あるいは産業構造など、わが国とオーストラリアでは財務報告制度を巡るインフラストラクチャの相違があまり大きく、IFRS に関する教育カリキュラムを直接的に移植することは不可能であるとの結論に達した。

この段階で、研究の焦点を IFRS 教育から、IFRS 教育の基礎ともいべき会計風土の欧米とわが国との相違という問題に一度、絞りなおした。その成果を、現在、わが国の会計実務で問題となっている減価償却を例としてまとめて、IAAER(International Association for Accounting Education & Research)の年次総会で研究発表を行った。

(英文) The research's aim is to develop an IFRS's educational curriculum for graduate schools. At the beginning of this research, I thought it would be the best way to borrow educational programs from Australia because it has been a precursor in relation to the adoption of IFRS. However, there are big differences between Australia and Japan concerning fundamentals of the IFRS implementation.

